

箕面市消防本部の管内概要

箕面市及び豊能町の地勢

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、東は茨木市、西は池田市及び川西市、南は吹田市及び豊中市、北は豊能町に隣接しており、昭和 31 年 12 月 1 日に市制を施行し、大阪府内 24 番目の市として誕生しました。

現在、人口は約 14 万人、市域は、東西 7.1 k m、南北 11.7 k m、面積 47.90 k m²で、北部は、市域の約 3 分の 2 を占める北摂山系箕面連山からなり、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

箕面市は、名滝「箕面大滝」とともに東海自然歩道の起点として知られ、大都市の近郊にありながら豊かな自然が残り、桜や紅葉の季節には近郊から大勢の観光客が訪れます。南部には、住宅地域が広がる一方、中央から北部にかけては、緑豊かな北摂山系の山々で占められた広大な緑地空間が広がっています。また、新名神高速道路箕面とどろみ IC の開通、さらに、北大阪急行電鉄南北線が延伸(千里中央駅から北へ約 2.5 キロメートル)し、「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」の 2 駅が新設されるなど、利便性の高い交通インフラが整備され、緑豊かな住宅都市、観光都市として発展しています。

また、平成 28 年 4 月から消防事務を受託している豊能町は、大阪府北部の北摂山地の地域に位置し、町域の約 3 分の 2 が山林を占めています。北は能勢町と京都府亀岡市、東は茨木市、南は箕面市、そして西は兵庫県川西市に隣接しており、大阪、京都、兵庫という三つの生活圏が交差しています。現在の人口は約 1 万 8 千人、面積は 34.34 k m²となっています。能勢電鉄や阪急バスなど鉄道網、道路網が充実しており、大阪都心へのアクセス環境が良く、大阪市内から 1 時間以内という地域に位置しながらも豊かな田園風景が広がっている街です。

さらに、令和 6 年 4 月から、北大阪消防指令センターが開設され、豊中市・吹田市・池田市・箕面市・摂津市による消防指令業務の共同運用を開始し、相互応援体制を強化するとともに広域的な災害対応力の向上及び行財政面の効率化を図っています。

箕面市の変遷

明治 22 年 4 月 1 日の町村制施行によりつくられた箕面村、萱野村、止々

呂美村の3村が箕面市の始まりで、その後、昭和23年1月1日に町制施行により箕面村が箕面町となり、同年8月1日に萱野村、止々呂美村と合併、昭和31年12月1日には三島郡豊川村と合併して市制を施行しました。そして、昭和32年4月1日に茨木市の川合地区を編入し現在のかたちになりました。

豊能町の変遷

明治22年、余野、野間口、川尻、木代、切畑が合併して東能勢村に、吉川が吉川村になったのが、豊能町の始まりで、その後、茨木市高山を編入し、東能勢村と吉川村が合併して新しい東能勢村になりました。そして、昭和33年には京都府亀岡市の牧、寺田地区を編入した後、宅地開発に伴って人口が急増し、昭和52年に豊能町が発足しました。